

# 赤十字NEWS

May 2013 Vol.876  
http://www.jrc.or.jp

5



日本赤十字社

赤十字150年

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



「おかえりなさい 三陸鉄道」「ありがとう 三鉄」——。東日本大震災で線路や橋脚、駅舎が流されるなど甚大な被害を受け、全線が不通となっていた岩手県の三陸鉄道南リアス線(36.6キロ)のうち、盛一吉浜間(21.6キロ)が4月3日、およそ2年ぶりに運行を再開。各駅のホームでは沿線住民が手作りの横断幕や、拍手と歓声で一番列車を迎えました。クウェート政府から日本赤十字社に寄せられた約400億円の海外救援金の一部が、新型車両の導入や駅舎整備などに活用されています。大船渡市の吉浜駅ホームでは赤十字広報特使で女優の藤原紀香さんがクウェート大使とともにくす玉を割り、復興に向けた新たな出発を祝いました。藤原さんは「これからも広報特使として、一人の人間として、復興をサポートし続けます」と誓いました。(2面に関連記事)

## 復興への希望を運ぶ 三陸鉄道南リアス線が 一部再開

駐日クウェート大使(右)と藤原紀香さんがくす玉を割って運行再開を祝いました(4月3日、大船渡市の吉浜駅で)

### CONTENTS

**TOPICS 2**  
三陸鉄道南リアス線  
クウェートの支援で新車両  
東日本大震災の検証・総括  
日赤が報告書発表

**TOPICS 3**  
献血しよう! 2013 in TOKYO  
中川翔子さんが呼びかけ  
明治学院大学と共同宣言  
若者のボランティア促進へ  
第92回 昭憲皇太后基金支援事業  
常任理事会開催報告

**SPECIAL 4 | 5**  
5月は赤十字運動月間  
あなたの想い  
日赤に託してください

**AREA NEWS 6 | 7**  
兵庫・沖縄・静岡・岡山・  
福島・千葉・大阪・石川  
児童福祉週間  
スポーツとコラボ  
Voice & プレゼント

**WORLD 8**  
フィリピン  
被災地で保健・医療支援活動  
イエメン  
ICRC 紛争犠牲者医療支援  
知っておきたい! 国際人道法

**Def Tech**  
http://www.jrc-undougekkan.jp  
http://www.jrc-akb48.jp/



クローズアップひと



クウェート大使  
アブドル・ラーマン・  
アル・オタイビさん

### 世界中に友達がいること、忘れないで

冷たい雨の中、大勢の沿線住民がクウェート国旗と三陸鉄道旗を振り続ける途中駅のホーム。おばあちゃんが一番列車の窓をどんとたたいて、大使に運行再開の喜びを伝えます。「熱烈な歓迎に本当に驚きました。人生で最も感銘を受けた瞬間の一つです」

2年前のあの日、大使館内で見た津波の映像。「ショックでした。自分が目に見ている映像を信じる事ができませんでした。クウェート国民も驚き、悲しみに包まれました」と語ります。本国のサバーハ首長が直ちに原油

による支援を決断し、約400億円相当が寄贈されました。「1961年の独立以来の友情への感謝の印であり、日本支援は私たちにとって自然な行動でした」

運行再開の日、恋し浜駅で雨に濡れながら、住民が焼くホタテを味わった大使は「今まで食べた中で一番おいしい」と満面の笑顔。「地元の人たちの頑張りや復興を加速させるでしょう。皆さんが苦しいときも、うれしいときも、私たちが皆さんのことを思い、そばにいることを忘れないでください」とエールを贈ります。

### PROFILE

1960年生まれ。名門のクウェート大学で国際政治と経済を専攻し、85年に同国外務省入省。外交官として英国、オランダ、インド、エジプトなどの駐在大使館で勤務。この間、アラブ連盟やイスラム諸国会議など重要な会議にも出席。2007年に駐日大使として着任。



### 三陸鉄道南リアス線

# クウェートからの支援で新車両

## 赤十字広報特使 藤原紀香さんが一番列車に乗車

「全国、全世界からの支援を受けて、本日運行再開となりました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。」

東日本大震災で全線不通となった岩手県の三陸鉄道南リアス線が4月3日午前、約2年ぶりに一部で運行を再開。出発直後、支援に感謝するアナウンスが車内に流れ、乗客から大きな拍手が湧き起こりました。

復興支援のために、クウェート政府から日本政府を通じて日本赤十字社に寄せられた原油の代金相当額約400億円の一部分が、三陸鉄道の新車両導入や駅舎整備に活用されました。救援金による新車両は今年度3両、来年4月の全線開通時に5両が導入される予定です。

### 「再開は希望のメッセージ」とクウェート大使

あいさつした同大使は「地震と津波は、クウェート国民にも大きな悲しみをもたらしました。南リアス線の再開が沿線住民一人ひとりに希望のメッセージをもたらすことを願っています」と県民を励ました。

真新しい3両編成の一番列車に乗った藤原さん。白地に大槌町を訪問し住民と笑顔の交流

藤原さんの被災地訪問は今回で7回目です。津波で大きな被害を受けた岩手県大槌町では、町内を一望できる高台で、碓川町長から現状を聞きました。

「被災した直後は世界から取り残されたような思いでした。全国の皆さんや日赤からの支援に心から感謝しています」と町長。

「町民の皆さんの様子はどうですか」という藤原さんの問いに、「これからは高齢者や、家族を亡くされた方々の精神的なケアがますます大事になります。紀香さんが来てくれて、元氣と希望をもらえるようです。」

町内の仮設住宅では、日赤岩手県支部の健康生活支援講習に碓川町長とともに参加し、住民の皆さんと一緒にラクゼーションに取り組みました。また、仮設住宅に住む小笠原喜三郎さん(75)・カヨさん(同)ご夫妻のお宅を訪問しました。

「ここは『ひよっこりひょうたん島』の地元。『苦しいこともあるだろう』って、みんなで前向きに歩いていくしかないね」と語る町長に、大きくうなずく夫妻。

藤原さんは「微力ですが、私も岩手の今と県民の底力を全国に伝え続けていきます」と約束しました。



一番列車の車内で「復旧は沿岸地域の明日への希望」と語る望月正彦・三陸鉄道社長(右端)と藤原さん



「全国、全世界の皆さんからの支援がありがたいですね」。藤原さんと語り合う小笠原さんご夫妻、碓川町長(左端)

「被災した直後は世界から取り残されたような思いでした。全国の皆さんや日赤からの支援に心から感謝しています」と町長。

「町民の皆さんの様子はどうですか」という藤原さんの問いに、「これからは高齢者や、家族を亡くされた方々の精神的なケアがますます大事になります。紀香さんが来てくれて、元氣と希望をもらえるようです。」

町内の仮設住宅では、日赤岩手県支部の健康生活支援講習に碓川町長とともに参加し、住民の皆さんと一緒にラクゼーションに取り組みました。また、仮設住宅に住む小笠原喜三郎さん(75)・カヨさん(同)ご夫妻のお宅を訪問しました。

# 東日本大震災の検証・総括踏まえ 日本赤十字社が報告書発表

日本赤十字社は3月11日、将来の大規模災害時ににおける義援金の取り扱いについて、東日本大震災の教訓を踏まえた「課題と今後の方向(報告)」を整理しました。今後、義援金受付団体をはじめ、国や自治体、金融機関などの関係者に、課題への具体的取り組みについての協議を呼びかけていきます。

平成23年3月14日から受け付けを開始した東日本大震災の義援金は、平成25年4月12日時点で受付件数約325万件、総額約3674億円。被災者からは多くの感謝の声が寄せられています。

報告は、こうした問題が生じた背景と課題について分析。義援金の性格や位置づけに関して、国民はもとより、自治体、義援金受付団体など関係者間で基本的認識が共有されていないこと。また、義援金配分の仕組みが今回のような大規模・広域災害を念頭に置いていない点などを指摘。そのうえで、①義援金に関する調整を中央で行う委員会を設置すること②義援金配分委員会が被災者への義援金の配分基準を決定する際の指針やガイドラインを定めること③市町村の義援金事務に対する企業やNPO、ボランティアなど民間の協力を得ることを検討することなどについて提案しています。

最後に報告は、「関係機関・団体が基本的認識を共有し、平時から必要な体制や対応方針をあらかじめ準備しておくことが最も肝要である」と結んでいます。

報告書は日赤ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)で公開しています。

### 共通認識で備えを

報告は、こうした問題が生じた背景と課題について分析。義援金の性格や位置づけに関して、国民はもとより、自治体、義援金受付団体など関係者間で基本的認識が共有されていないこと。また、義援金配分の仕組みが今回のような大規模・広域災害を念頭に置いていない点などを指摘。そのうえで、①義援金に関する調整を中央で行う委員会を設置すること②義援金配分委員会が被災者への義援金の配分基準を決定する際の指針やガイドラインを定めること③市町村の義援金事務に対する企業やNPO、ボランティアなど民間の協力を得ることを検討することなどについて提案しています。

最後に報告は、「関係機関・団体が基本的認識を共有し、平時から必要な体制や対応方針をあらかじめ準備しておくことが最も肝要である」と結んでいます。

報告書は日赤ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)で公開しています。

**東日本大震災における義援金に関する課題**

- ① 大規模・広域災害に対応できる義援金配分の仕組みの欠如
- ② 被災自治体の行政機能喪失
- ③ 義援金の性格・位置づけなどに関する関係機関の共通認識の欠如など

**日赤が考える今後検討すべき課題など**

- ① 中央において義援金に関する調整を行う委員会の設置
- ② 義援金受付団体による被災都道府県への早期送金のための指標の策定
- ③ 義援金の配分基準についてあらかじめ指針やガイドラインを設定
- ④ 復興支援活動への寄付金など寄付者の意思を尊重するための別個の受付手段の検討
- ⑤ 義援金受付団体の代表が義援金配分委員会に委員として参加する措置
- ⑥ 企業やNPO、ボランティアなどが市町村の義援金事務を支援協力することの検討
- ⑦ 義援金の受付・送金、配分状況などに関する国民への報告と第三者による監査・情報公開など

**2014年3月31日まで、義援金の受付を延長いたします。**  
引き続き皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 東日本大震災義援金あて先  
【通常払込み(ゆうちょ銀行・郵便局)】  
口座記入番号 00140-8-507  
口座加入者名 日本赤十字社  
東日本大震災義援金  
※ゆうちょ銀行・郵便局の貯金窓口において通常払込みをされた場合、料金(手数料)は免除されます。  
※義援金は各金融機関、クレジットカード、コンビニエンスストア、Pay-easyなどにより受け付けています。  
詳しくは下記お問い合わせ先、または日本赤十字社ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)をご覧ください。
- 義援金の受付・送金状況  
【受付】3,674億円  
(2013年4月12日現在)  
※中央共同募金会受付分を含む  
【送金】3,586億円/被災された15都道県  
(2013年4月12日現在)  
【配付】3,397億円/被災された方  
(2013年3月29日現在)  
例)一件当たりの配分額:住宅全壊、死亡などの場合、約114万円

日本赤十字社 東日本大震災義援金担当  
フリーダイヤル:0120-60-0122  
(受付時間/平日・土・日・祝日9:00~17:30)  
Eメール:info@jrc.or.jp

### 献血しよう! 2013 in TOKYO

# 「献血は楽しい。幸せな気持ちになれます!」

## 中川翔子さんがライブでファンに呼びかけ



今年デビュー11周年。6月にはニューシングルも発売予定

「今日のライブでもっと元気になって、また献血に行ってください!」——歌手・タレントとして人気の中川翔子さんが3月28日、東京・渋谷のライブハウスで開かれた「東京都赤十字血液センター presents Social Live」に出演。集まった多くのファンに献血への協力を熱く呼びかけました。

ライブは、若年層に献血を広げていくと企画されたもの。東京都内の献血会場応募した約8000人の中から抽選で750人が招待されました。

中川さんは、この日のライブのために自ら人生初の献血に挑戦。曲の合間には、その献血の様子を映したビデオも



「これからも献血を続けます」というファンの声も

「裏表がなく、天真らんまんなよこたん(中川さんの愛称)の姿が好き」「何事も一生懸命だし、かわいい」。会場に集まったファンは、中川さんの魅力をそう語りまします。そんなファンだけに、献血に挑戦したというよこたんの影響は小さくありません。

「注射も血も苦手ですが、よこたんのファンとして献血に初めて行ってきました」といったファンも。そんな一人、長沢孝予さん(29)

### 歌で献血を応援します by 中川翔子

ライブに来てくれた一人ひとりが献血会場に足を運ばれた人たちなんだと思うと、心が温くなる今日のライブでした。また、このライブがきっかけで献血に初挑戦した人がいたとするとすごくうれしい。こうした機会を与えていただいたことに感謝しています。

献血は健康でなくちゃできないんですよ。だから、私もみんなが元気で笑顔になれるよう、歌で献血を応援していきたいと思います。

「血が駄目なんですけど、上座されました。」「漫画もあってお菓子も食べられる献血ルームは快適! しかも私の血が誰かの力になる。いいことばかりの献血です」と振り返った中川さん。「今も輸血を必要としている人がいます。友達を誘ってまた行ってください」と献血を呼びかけました。

### 大切なのは「きっかけ」

医療関係の仕事に就いている加藤千恵さん(23)は「若年献血者が減っているそうですが、私たちの世代に、人の役に立ちたい」という思いが欠けているわけではないと思います。きっかけがあれば協力する人は多いはず。今日のライブはその良い機会になると思います」と会場の最前列から熱い声援を送りました。

### 第92回 昭憲皇太后基金支援事業

# 5カ国に1055万円の配分を決定

#### 第92回の配分先と対象事業

- 1.イラン赤新月社(中東) 約235万円  
刑務所に収容されている若い四人に対して、いのちと健康を守る支援を行います。
- 2.エリトリア赤十字社(アフリカ) 約226万円  
交通事故死傷者の減少へ、交通安全訓練や救急法の普及、救急車サービスを実施します。
- 3.キリバス赤十字社(大洋州) 約200万円  
医療機関へのアクセスが悪いクリスマス島の学校などに救急法講習を行います。
- 4.ベラルーシ赤十字社(ヨーロッパ) 約189万円  
障がいのある子どもと家族を対象にサマーキャンプを行い、自立を支援します。
- 5.ボリビア赤十字社(中南米) 約205万円  
一昨年の豪雨災害で被災した子どもなどを対象に、救急法講習と防災教育を行います。

赤十字国際委員会(ICRC)と国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)で構成する昭憲皇太后基金管理合同委員会は4月11日、イランなど5カ国の赤十字・赤新月社の事業に対し、総額約1055万円を今年度分として配分することを発表しました。

**基金増額へのご協力ありがとうございました**

各国赤十字社の活動を支援する昭憲皇太后基金は昨年創設100周年。これを記念



明治学院大学の鶴殿学長(右)と日赤の近衛社長

## 若者のボランティア促進へ

日本赤十字社と明治学院大学は4月5日、学生など若い人たちにボランティア参加を呼びかける共同宣言「ボランティア・パートナーシップ・ビヨンド150」に調印。ボ

ランティア普及へ、お互いが持つ情報や資源を提供し合っていくことを確認しました。

**共に迎えた150周年**

明治学院大学は幕末に來日した宣教師J・C・ヘボンが創設した大学。ヘボンは無償の診療所を開設するなど、社会貢献活動でも知られています。大学の教育理念には「他者への貢献」を掲げており、調印式で明治学院大学の鶴

学生らのボランティア参加に力を入れてきました。

今年同大学も赤十字とともに創立されてから150周年を記念したものです。日赤は同大学に対しボランティア情報などを提供。大学側は学生、教職員をはじめ、卒業生や他大学に向けてボランティア参加を呼びかけていきます。



保健衛生と救急法の普及事業(ツバル赤十字社・2010年)

した特別増額募金(平成24年1月1日〜平成25年4月11日)に際しては、天皇皇后陛下からご下賜金を賜りました。また多くの国民の皆さまから多額の寄付が寄せられました。皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。募金総額については次号でご報告します。

### 常任理事会開催報告

平成25年4月19日、本社において平成25年度第1回の常任理事会が開催されました。

今回の常任理事会は年度初めでもあり、付議事項はありませんでしたが、企業・団体とのタイアップによる全国的講習事業の推進、予算の補正にかかる社長専断事項等の決定状況について、それぞれ報告しました。



「苦しんでいる人を救いたい」

# あなたの思い、日本赤十字社に託してください

## 一人ひとりの協力が、人道支援活動を支えます



日本赤十字社は、国内法によって、中立の立場で活動することを保障された民間組織であり、世界188の国と地域にある赤十字・赤新月社の一員として、人道的使命を果たすことを目的としています。一刻を争う災害救護をはじめ、病気で苦しむ人のサポートなど、日赤は国内外でさまざまな人道支援活動を行っています。これらの活動は、赤十字の理念と活動に賛同して下さる「赤十字社員」をはじめ、皆さまからお寄せいただく「活動資金」によって支えられています。

赤十字社員とは、年間500円以上を継続的に支援して下さる方のことで、年齢や職業に関係なく、また個人・法人を問わず、どなたでもご参加いただけます。皆さまからお寄せいただいた資金は、日赤の活動資金となり、人間のいのちと健康、尊厳を守るために役立てられます。

人間を救うのは人間だ——このスローガンに込められた思いを私たちがカタチにします。日赤の活動資金へぜひご協力をお願いいたします。

**OPEN** 赤十字運動月間特設サイト  
<http://www.jrc-undougekkkan.jp>

## 活動資金にご協力いただく方法

日赤では、社員となって活動を支援していただくほか、ご寄付も随時受け付けています。ご都合にあったかたちでご協力ください。詳しくは、日赤ホームページ (<http://www.jrc.or.jp>)、またはナビダイヤル(0570-009595)まで

### 赤十字社員にご参加いただく方法

NEW!

**インターネットで\***  
日赤ホームページからお申し込み。クレジットカード決済でその場でお手続きが完了



**口座振替で\***  
日赤ホームページから「社員加入申込書」をダウンロードし必要事項を記入後、郵送してお申し込み



**戸別訪問で**  
赤十字奉仕団や町内会の方々が持ちする申込用紙でお申し込み

**お近くの窓口で**  
各都道府県の日赤支部、市区役所などの赤十字窓口でお申し込み

\*クレジットカード決済および口座振替の場合、振込手数料や事務手続き費用を日赤が負担させていただいたため、1回当たりの金額は2000円以上をお願いしています。

### ご寄付いただく方法

**インターネットで\***  
日赤ホームページ上でお手続き

**銀行振込/郵便口座で**  
窓口に備えつけの振込用紙、振替用紙に必要事項を記入してお振り込み

**コンビニから**  
ファミリーマートの情報端末「Famiポート」からタッチパネルで簡単寄付

**ポイント募金など**  
クレジットカードなどのご利用でたまったポイントや募金サイトを通じたクリック募金も受付中



**国内外の災害や紛争での救護**  
大規模災害や紛争での救援活動のほか、将来の災害に備えた救護員養成、救援物資の備蓄に



**救急法などの講習**  
AED(自動体外式除細動器)の使い方や心肺蘇生を学ぶ救急法講習などを全国各地で開催

### 活動資金の行方

## 日本と世界の人道支援に明日あるかもしれない災害の備えにも——

皆さまから寄せられた活動資金は日赤のさまざまな活動を支えています。

### 社会活動

地域で福祉活動などを担う奉仕団の活動支援、青少年赤十字(JRC)の育成、指導者研修などに



### 国際的な人道支援

災害被災地の復興支援、アジア、アフリカ諸国での保健衛生指導や防災支援などを推進

### Interview!

## 活動資金募集を通じて参加する人道支援

東京都 武蔵野市赤十字奉仕団 委員長 **栖雲 勲子**さん



武蔵野市では、毎年の運動月間で奉仕団員が地域を戸別訪問したり、街頭に立って活動資金へのご協力をお願いしています。1軒1軒のお宅を訪問するのは大変なこともあります。以前、あるお寺を訪ねたときには「赤十字ってキリスト教でしょ?」と言われたことがありました。「違んですよ」と話し、病気で苦しんでいる人を救う医療や献血のこと、災害や紛争で被害に遭われている人を助ける救護活動のことなどを説明したら、「分かりました」と1万円を渡してくれたんです。驚きました。「苦しんでいる人を救いたい」という赤十字の理念には、人の心を動かしていく力がある。募金活動を通じてそのことを実感しました。

私たちにあって、日赤の活動資金募集は、単なるお金の

集金ではありません。赤十字奉仕団の信条に「陰の力となって」という言葉がありますが、文字通り陰ながら人道支援に参加しているという気持ちで取り組んでいます。

ですから、被災地支援に従事する赤十字の姿をテレビなどで見るたびに、「私たちの活動が、ここに活かされているんだ」と誇りに感じています。「赤十字の人道支援活動」という使い途だからこそ、長年の募金活動も続けられるんですね。

### 「人間を救うのは、人間だ。」を確信

最近では、大型マンションが増えるなど、ご近所づきあいが希薄になりつつあります。

けれど、募金をはじめ日頃の奉仕団活動を通して、顔を見ながらお話しして、伝えて、それを相手が理解して、行動してくれる——そうした人と人との関係を大事にしています。「人は人でしか支えられない」ということを実感してい

ます。日常のなかでのお付き合いを大切に、困ったときは支え合うというのは、いつの時代も変わらないと思っています。

ですから、他人事と思わずに、赤十字をもっと身近なものと感じていただきたいですね。「人間を救うのは、人間だ。」という日赤のスローガンがありますが、本当にその通り。活動資金へのご協力をはじめ、ぜひ一緒に赤十字活動に参加していただけることを願っています。

**赤十字奉仕団**  
高齢者支援や災害救護・防災、献血推進などの活動を行うボランティア組織。市区町村ごとの地域赤十字奉仕団、学生らで組織する青年赤十字奉仕団、専門技術を活かした特殊赤十字奉仕団があり、全国約3000の奉仕団に約227万人のボランティアが登録しています。



**今年もAKB48がメッセンジャーに**  
AKB48を赤十字オフィシャルメッセンジャーに迎えたキャンペーンが今年も6月からスタートします。テレビCMも6月からスタートします。テレビCMや特設サイトなど多彩なメディアで、赤十字をもっと知ってもらうためのメッセージを発信していく予定です。



**Def Tech x 日本赤十字社**  
運動月間中、地域の掲示板や駅などに貼られる日赤のポスター。このポスターにある赤十字マークにスマートフォンをかざすと、Def Techが日赤のために書き下ろした新曲「Be The One」をスペシャルCM映像とともに視聴できます。

# AREA NEWS

## 「アートで元気」に夢づくり隊の復興支援

福島県・千葉県

福島県支部は3月26日、復興支援の一環として子どもたちに創作活動を楽しんでもらう「夢づくり隊」を行いました。

「アートで元気に!」をテーマにした夢づくり隊は、千葉県支部と千葉県立美術館の全面協力を得たものです。会場となった福島市立野田小学校の教室には、福島市放課後児童施設「たかくら家キッズハウス」の1～6年生児童50人と市内の青少年赤十字(JRC)の高校生メンバー20人が集合。「はっけん!自分色 虹色パレット・缶バッジ制作」と「夢ビルダーカードによるオブジェ作り」の2つのコーナーが設けられ、子どもたちはオリジナルのバッジや、円形段ボールを次々に組み合わせて創意工夫あふれるオブジェを作り上げました。



夢ビルダーカードの作品は、野田小学校とたかくら家キッズハウスに持ち帰られ、クラスみんなで組立遊びに使われています

## ゲーム感覚で避難所運営に挑戦

静岡県

避難所運営を任せられたとき、殺到する人々や出来事にどう対応していくのか——静岡県支部は3月9日、赤十字防災ボランティアを対象にした研修会を実施。避難所運営のノウハウをゲーム感覚で身につける講習を行いました。

研修会で使われたのは、静岡県の危機管理部が開発した避難所運営ゲーム「HUG」。災害時の避難所運営をカードと平面図を使って体験するものです。参加した防災ボランティアは、高齢者など要援護者への配慮をしながら部屋割りを考え、ベットの対応や仮設トイレの配置などの生活空間を確保。取材対応や救援品の申し出といったさまざまな出来事に対して、各々が意見を出し、チームで話し合いながら避難所の運営を体験しました。



研修会には県内の防災ボランティア7人が参加しました

## 赤十字ボランティアのつどい横のつながりを強化

大阪府

専門技術を活かした活動を行っている特殊奉仕団と個人ボランティアが一堂に会する「赤十字ボランティアのつどい」が3月10日に開催されました。

このつどいは、「ほかの赤十字ボランティアの活動内容を知る機会がほしい。横のつながりを強めたい」と平成17年度にスタート。ボランティアが実行委員会を結成し、企画・運営を担っています。

今年度は、118人のボランティアに対し有功章などを贈呈したほか、看護奉仕団と青少年赤十字賛助奉仕団が日頃の活動を報告しました。また基調講演には、福島県から大阪に避難している吉川裕子さんを招き、津波や地震の恐ろしさや避難生活の体験などを語っていただきました。



吉川さんの話に参加者からは「風化なんてとんでもない。できることがあれば、ぜひお手伝いしたい」といった感想が寄せられました

## 東海地震想定し図上訓練関係機関との連携も確認

静岡県

駿河湾から伊豆半島沖を震源域とするマグニチュード8.0の地震が発生し、伊豆半島を中心に甚大な被害が——静岡県支部は3月11日、東海地震を想定した図上訓練を行いました。

訓練では、震災時の情報収集とその処理などにかかわるシミュレーションを実施。静岡県など関係機関との連絡調整の下、救護班の活動状況や医療ニーズを把握する訓練をしました。また、緊急メールによる職員の安否確認や参集、支部の給水設備や非常時発電機の点検、備蓄食料の確認などの実動訓練も合わせて行われました。今回の図上訓練を踏まえ、支部では東海地震対応計画や災害対応マニュアルの改訂を行っていく予定です。



いつ起きても不思議ではないとされる東海地震だけに日頃の訓練が重要です

## インドネシア看護師候補生国家試験合格!

兵庫県

インドネシアとの経済連携協定(EPA)に基づき来日し、姫路赤十字病院で受け入れてきた看護師候補者のララスワティ・スヨノさんが3月25日、看護師国家試験に合格しました。日本赤十字社が平成20年度から受け入れている看護師候補者の中からの合格は、ララスワティさんで5人目となりました。

EPAの看護師候補者は、日本の病院で働きながら国家資格取得に向けて勉強し、3年以内での合格を目指しています。ララスワティさんは平成24年1月から姫路赤十字病院で看護助手として働きながら、勉強を続けてきました。合格の感想を聞かれたララスワティさんは「周りの支援のおかげで合格できました。将来は日本で働きたい」と笑顔で語りました。



ララスワティさんは2回目の挑戦で見事合格

## 赤十字病院と海軍病院いのちを救う日米協力

沖縄県

くも膜下出血で危機的な状況に陥った米国軍人の患者を沖縄の米海軍病院から沖縄赤十字病院へ緊急搬送し、両病院の医師による手術でいのちを救うという「日米協力」が行われました。

患者は当初、海軍病院に収容されましたが、同病院には専門医がおらず設備も不足。海軍病院と県内医療機関との協力も通常は行われていませんでした。しかし、沖縄赤十字病院の與那覇博克脳外科副部長と海軍病院のランディー・ベル脳神経外科医とが旧知の仲だったことから、両病院間で連携が取られることに。ベル医師を助手に與那覇医師が手術を行いました。患者は1週間後には食事が取れるまでに回復し、米国本土へ転院となりました。



ベル医師(左)と與那覇医師(右)。2人は與那覇医師の米国留学時代からの友人

## 奉仕団が八面六臂の活躍 防災訓練、日赤CMにも

静岡県

日本赤十字社の平成25年度版テレビCMの撮影が3月上旬に静岡県修善寺で行われ、三島市、伊豆市の赤十字奉仕団がエキストラとして出演。両奉仕団の団員も「こんな機会のはめつたにありません!」と笑顔で撮影に臨みました。

また3月27日には、浜松市浜北および浜松市天竜赤十字奉仕団が浜松赤十字病院で行われた防災訓練に参加。約100食分の炊き出しを行うとともに傷病者役としても協力しました。訓練は、東海地震を想定したもので、同病院の防災訓練で地域赤十字奉仕団が炊き出しを実施するのは初めてです。ハイゼックス(炊飯袋)を使用した炊き出しに、地元自治会のメンバーからは「自治会の防災訓練でも使ってみよう」との感想が出されました。



地元自治会の皆さんに非常食の作り方を説明する浜松市浜北赤十字奉仕団

## 被災地への思い胸に復興応援イベント開催

岡山県

「被災地を忘れない」という思いを一人でも多くの方に——岡山県支部は3月11日、そうした願いを込めた被災地復興支援イベント「届け被災地へ! 応援メッセージ」をJR岡山駅で開催しました。

震災から2年。震災の記憶も薄れ始め、義援金や被災地で活動するボランティアも減少しています。そうした中で開催された今回のイベント。地震発生時刻の14時46分に来場者とともに黙とうを捧げ、ステージでは岡山県出身の歌手、中西圭三さんらプロ・アマチュアミュージシャンが被災地応援ライブで継続的な支援を呼びかけました。会場には「被災地応援メッセージボード」も設置され、心温まる多くのメッセージが寄せられました。



寄せられたメッセージは3月下旬、防災ボランティアらにより岩手・宮城・福島の各県支部へ届けられました

スポーツとコラボ

巨人軍長野選手から被災地へ遊具のプレゼント

福島県



遊具が贈られた「いわきっす もりもり」(いわき市石炭・化石館内)に子どもを遊ばせてきた父親は「まだまだ安心して外で遊べないので助かります」

「読売巨人軍赤十字支援プロジェクト」の3代目支援リーダー、長野久義選手から4月11日、福島県いわき市の子どもたちに屋内遊具2種類が寄贈されました。長野選手は昨年、赤十字支援リーダーとして「赤十字チャリティートートバッグ」のデザインに協力。今回の遊具寄贈は、このトートバッグを販売した収益金(約133万円)によるものです。

現在いわき市には、福島第一原発の周辺自治体から逃れてきた多くの被災者が避難生活を送っています。また放射線への不安から、子どもたちの屋外活動が制限される事態も一部で続いています。遊具の寄贈は、こうした子どもたちを応援していくのが目的です。

長野選手は「チャリティーにご協力いただきましたファンの皆さま、本当にありがとうございました。今回、僕の意向を球団、日本赤十字社さんにご理解いただき、このような形で支援させていただくことになりました」とメッセージを寄せています。

県内初、園児が赤十字活動エコキャップなどを贈呈

石川県



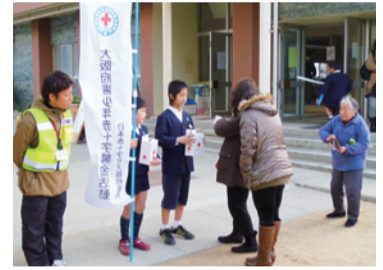
奉仕団員の皆さんは「目に熱いものが込み上げてきました。感謝の気持ちでいっぱいです」

七尾みなと保育園(七尾市)の園児たちが3月19日、赤十字活動として収集したプルタブとエコキャップを七尾市地区奉仕団へ贈呈しました。

七尾みなと保育園は、昨年6月に保育園として石川県で初めて青少年赤十字(JRC)に加盟したばかりです。園児たちは、プルタブ約20キログラム、エコキャップ約3万6000個を収集。同保育園のホールで行われた贈呈式では「みんなで一生懸命集めました。世界の子どもたちのために役に立てください」と唱和し、七尾市地区奉仕団員に贈りました。保育園の先生の一人は「園児たちは誰かの役に立つことがうれしかったようです。これからも、コツコツと誰かに役立つことをしていきたいと思います」と語っています。

最後の「ちょボラ」皆で実践した義援金募集

大阪府



JRCの態度目標「気づき、考え、実行する」を実践した尾崎小の6年生

青少年赤十字(JRC)加盟校の阪南市立尾崎小学校で3月2日、阪南市立福島小学校との統合、校地移転を控えた「お別れの会」が開催され、6年生児童がJRC活動として東日本大震災の義援金募集に取り組みました。

6年生は日頃から「ちょボラ」という名称で、自分たちができるボランティア活動を行ってきました。その一環として「お別れの会の中で、被災地のための募金活動をしよう」と児童自らが決めたものです。学校創立139周年行事として実施されたお別れの会には、卒業生や地域の人々も参加しており、多くの方が募金に協力。児童は集まった義援金を、「僕たちの気持ちも一緒に届けてください」と日本赤十字社大阪府支部に手渡しました。

Advertisement for Japanese Red Cross Society featuring AKB48 members holding red crosses. Text: 赤十字を知ってほしい。もっと。 URL: http://www.jrc-akb48.jp/

児童福祉週間(5月5日~11日)

子どもたちの健やかな成長を願って

子どもたちの健やかな成長について国民全体で考える「児童福祉週間」(主催:厚生労働省など、協力:日本赤十字社ほか)が、「こどもの日」の5月5日から1週間の日程で始まります。

今年の標語は、「君がいる ただそれだけで うれしいよ」。東京都の多賀葵さん(12)の作品です。

日本赤十字社は、さまざまな事情により親が家庭で養育できない子どもや、身体に障害のある子どもが、健やかに成長できるよう、全国で16の児童福祉施設を運営しています。これらの施設では、赤十字ボランティアや地域との連携にも力を入れています。茨城県支部乳児院では、現在90人の乳児院奉仕団の皆さんが、子どもたちの身の回りの世話や行事などで活躍中。

各施設でも子育て支援のための育児相談や里親制度の普及、季節ごとのイベント開催など、それぞれの地域に根ざした活動を行っています。



児童福祉施設では、子どもたちとの一対一の関係を大切にしています

Voice & プレゼント

Voice 本紙に寄せられた読者の声をご紹介します

アイデアメニュー、試したい —— 匿名希望(岐阜県山県市)

3月号のAREA NEWSに載っていた徳島県の「災害時炊き出しメニューコンテスト」は興味深かったです。「ラーメン入り炊き込みご飯」、おいしそう。ぜひ、自分で作って食べてみたいです。

プレゼント

「三陸鉄道沿線カップ酒の旅~南リアスのお酒~」を3名様にプレゼントします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。



※未成年者の飲酒、飲酒運転は法律で禁止されています。

- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
⑤赤十字NEWS 5月号を手にした場所(例/献血ルーム)
⑥赤十字NEWSへのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

応募先 ● 郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 企画広報室 赤十字NEWS 5月号プレゼント係
FAX/03-3432-5507
メール/koho@jrc.or.jp(件名「赤十字NEWS 5月号プレゼント係」)

応募締切 ● 5月27日(月)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



フィリピン南部台風

# 3カ月にわたり被災地で保健・医療支援活動 ICRC 国際保健医療チームが帰国

昨年12月に台風24号(アジア名:ポーファ)が直撃したフィリピン南部のミンダナオ島では1900人を超す死者・行方不明者が出るなど約630万人が被災。赤十字国際委員会(ICRC)の要請を受けた日本赤十字社は、国際保健医療チームに6人の医療スタッフを派遣し、3月下旬まで被災者救援活動を展開してきました。任務を終えたメンバーは「東日本大震災の被災地と同様の光景が広がっていた」と報告しました。

## 機能不全に陥っていた地域の保健・医療

ヤシの木がなぎ倒され、多くの家が崩壊したミンダナオ島東部。チームリーダーの伊藤明子看護師(名古屋第二赤十字病院)は「屋根が吹き飛ばされ、柱や土台だけ残っている建物が多い。そんな光景が幅20~40キロに渡り、続いていました」と被災地の状況を語ります。

赤十字が診療所を開設したのはミンダナオ島の中でも被害が最も深刻だった東ダバオ州。唯一の医療施設も屋根が飛ばされ、医療器材が使えなくなるなど機能不全に陥っており、被災住民の保健医療は深刻な危機にさらされていました。

保健医療チームは日赤主導の下、ドイツ、フィンランド、ノルウェー、カナダの各赤十字社で構成。3カ月間に7000人余りの被災者を診察するとともに、地元施設の機能回復へ支援活動を展開してきました。

## 「こころのケア」のサポート体制づくりも実施

12月から3月にかけても雨の多いミンダナオ島。多くの人は台風で壊れた家の屋根を救援物資として配給されたビニールシートで覆うだけなので、十分に雨をしのぐことができません。窪田祥吾医師(熊本赤十字病院)は「濡れた服をそのまま着続けたりして、もともと抱えていた症状を悪化させてしまうケースが多く、肺炎になってしまう子どももいました」と診療を振り返ります。

東日本大震災でも重要な活動となった被災者の「こころのケア」も取り組みの一つ。しかし、赤十字の国際チームが、言葉も文化も違う被災者のこころのケアを直接行うには限界があります。そこで、小学校の先生や地域のヘルスワーカーら170人を対象に「こころのケア」の必要性を理解してもらう機会もつくりました。



被災した東ダバオ州バガンガの医療施設▶  
診療に当たる窪田医師▼



伊藤看護師は「学校の先生たちは、ストレスをうまく表現できない子どもたちの心を理解する方法の一つとして『絵を描いて語り合う』ことなどを実践しています。また、地域のヘルスワーカーの方から、専門家の対応が必要な患者さんの照会もありました」と活動の手応えを話します。

## 人口5万3000人の町に医師は1人

被災した医療施設は建物の修復が完了し、患者の受け入れも徐々に回復しつつあ

ります。とはいっても、被災地の医療体制は、5万3000人の人口に対して医師がわずか1人しかいないなど、もともとが極めて弱い。必要な保健・医療ニーズが満たされない根本は解決されないままです。

しかし、今回の支援を通じて被災地に残されたものも。「国際保健医療チームでは、地元のフィリピンスタッフとともに活動し、勉強会を行ったことで、お互いに学ぶこともありました。これからの保健・衛生活動に活かしてもらえると信じています」と窪田医師は胸を張ります。

イエメン

# ICRC 紛争犠牲者医療支援 高尾看護師が帰国

政府と反政府勢力との衝突や紛争が続いたイエメンで、およそ半年にわたり医療活動に当たっていた沖縄赤十字病院の高尾実千代看護師が3月末、帰国しました。同国で紛争犠牲者への支援活動を行っている赤十字国際委員会(ICRC)の要請を受け、日赤が昨年10月から派遣していました。

高尾看護師はICRC 外科医療チームの手

術室担当看護師として、激しい戦闘があった南部のアビヤン州にあるアルラジ病院の手術室や外科病棟などで活動しました。同病院は2011年9月にロケット弾2発が着弾し、病棟の一部や外来検査室などが大きな被害を受けました。「外来の天井は大きな穴が開いたままで、避難したまま職場に戻っていないスタッフもいます」

## 院内のあちこちに「銃の持ち込み禁止」

町ではいまだに、銃で武装した人々が目立ちます。「病院の入り口や院内のあちこちに、『銃の持ち込み禁止』を示すステッカーが貼ってあるのですが、武装したグループが治療を求めて無理やり施設内に入ろうとする。彼らが負傷した仲間を車で1時間ほど離れたアデン(イエメン第2の都市)の病院に搬送するとき、その場に居合



地元のスタッフと医療器具を消毒する高尾看護師

わせた地元出身の医師と一緒に連れて行ってしまったということがありました」

「安全な場所とは言い切れませんが、本当に危険ならICRCが活動を中止するはず。怖いというより、困っている人の役に立ちたいという思いの方が大きかったです」という高尾看護師の海外での活動は、パキスタン、ケニアに続いて3度目。「海外では困難なこともあります。あらゆる患者さんを診るということで、経験の幅も広がります。また行きたいですね」

ICRCは現在も、紛争犠牲者への医療支援や義手や義足の提供、仮設シェルター設置、食料や水・生活支援などのほかに、収容所の調査訪問、離散家族支援といった国際人道法の遵守に向けた活動にも取り組んでいます。



## 5. クラスター爆弾と無差別攻撃の禁止

シリアの内戦では、政府軍のクラスター爆弾使用の疑いが報じられています。クラスター爆弾は、空中で破裂する容器に多数の小型爆弾が入った兵器です。小型爆弾は数千口四方に広がって個々に破裂するため、多くの一般市民が巻き添えになっています。小型爆弾の10~40%は不発弾として地上に残ることから、子どもが触ったり、家に持ち帰ったりして、犠牲になるケースも少なくありません。

国際人道法は、過度の傷害や無用の苦痛を与える兵器の使用を禁止しています。また、一般市民と軍事目標が区別

できない中での戦闘を認めていません。無差別攻撃は重大な国際人道法違反なのです。クラスター爆弾はまさにこうした性質を持つ兵器といえます。

赤十字国際委員会(ICRC)も無差別攻撃の禁止を国際社会へ働きかけるなどその役割を果たす中、2010年に「クラスター爆弾禁止条約」が発効しました。シリアはこの条約の加盟国ではありませんが、2012年現在で77の国がこの条約に加盟しており、加盟国の輪は徐々に広がっています。